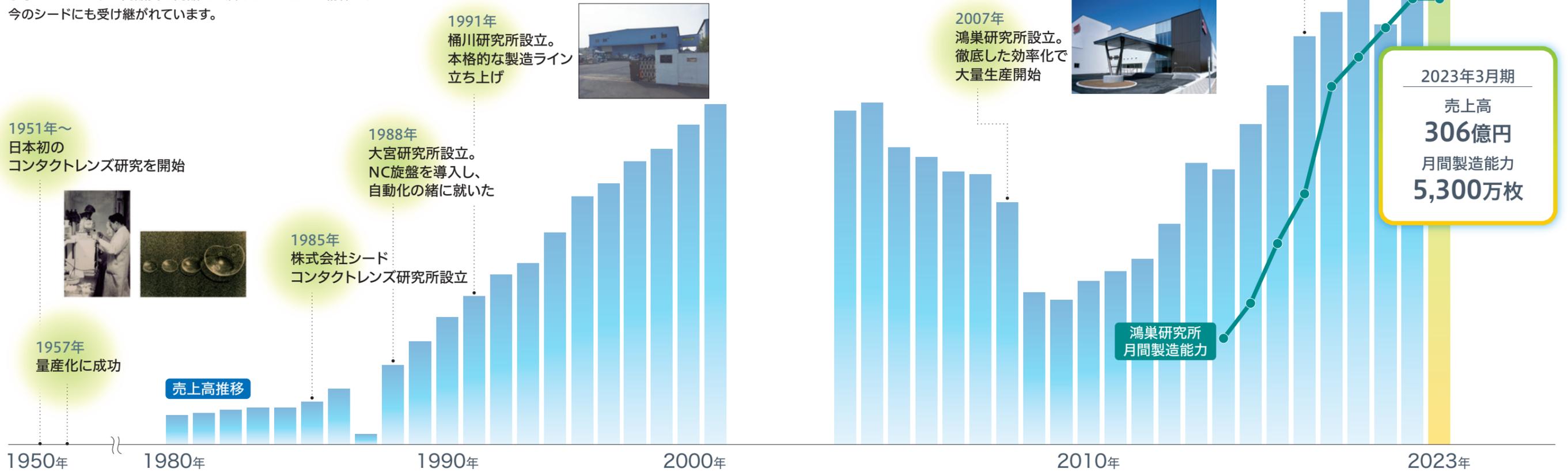


高品質な商品をお届けしたいという想いで、 一人ひとりの「見える」に貢献

シードの歴史は、義眼製造を営む厚沢弘陳が、順天堂大学に協力する形でコンタクトレンズの研究に着手したところから始まりました。創業当初は、一人ひとりの眼に合わせ手作業で度数を調整する製法でした。丁寧なものづくりで高品質な商品をお届けしたいという精神は、今のシードにも受け継がれています。



コンタクトレンズの普及 → 使い捨てコンタクトレンズのニーズ増加 → 付加価値のあるコンタクトレンズを提供

ハードコンタクトレンズが主流だった1972年、日本初のソフトコンタクトレンズを発売。装着感の良さから徐々に需要が高まり、シードは品質を追求し改良を重ねました。1988年には製造工程の自動化が実現し、コンタクトレンズ普及に向けた基盤ができてきました。

- 1972年 **ソフト** ソフトコンタクトレンズを発売 **日本初のソフトレンズ**
- 1984年 **ハード** 酸素透過性の高い新素材を採用 **ハードコンタクトレンズ「マイコンハイO₂」を発売**
- 1992年 **ケア** ソフトコンタクトレンズケアシステム「コンセプト F」を発売 **煮沸消毒不要のケア用品**

1991年、日本市場に1週間タイプの使い捨てコンタクトレンズが海外から投入されます。衛生面の問題がクリアされたことで一気に需要が高まり、1997年にはシード初の2週間・1ヵ月交換型の使い捨てコンタクトレンズを発売しました。その後、市場は1日使い捨てコンタクトレンズの需要拡大によりさらなる大量生産が求められ、2007年に60億円を投じて鴻巣研究所が竣工。国産初の高品質な使い捨てコンタクトレンズの大量生産を実現しました。また、2012年に発売した、新発想のサークルレンズがさらなる成長を支えました。

- 2004年 **2週間交換** 2週間交換コンタクトレンズを発売 **初の国産使い捨てレンズ**
- 2009年 **ワンデー** 1日使い捨てコンタクトレンズを発売 **初の国産ワンデー**
- 2012年 **ワンデー** 瞳の輪郭を際立たせるサークルレンズを発売

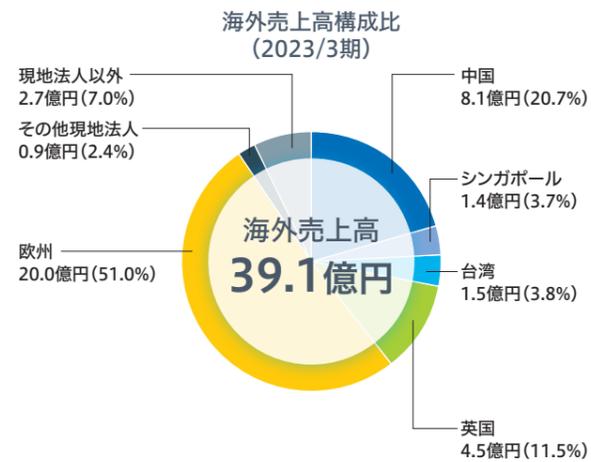
2010年代以降は、時代とともに変化するニーズを捉え、視力矯正の効果があるオルソケラトロジーレンズや、眼圧変動を測るセンサーが搭載されたスマートコンタクトレンズ等、時代に先駆けて新たな付加価値のあるコンタクトレンズを商品化してきました。

- 2013年 **ワンデー** オルソケラトロジーレンズ「プレスオーコレクト®」の一次代理店として販売を開始
- 2018年 **ワンデー** スマートコンタクトレンズの国内承認を取得 **シード独自**
- 2019年 **ワンデー** EDOF原理を採用した遠近両用コンタクトレンズを発売 **日本初、医療発***
- 2021年 **ワンデー** デジタルデバイス使用時の瞳のストレス軽減を目指して開発したコンタクトレンズを発売
- 2022年 **ワンデー** シリコンハイドロゲルレンズを発売

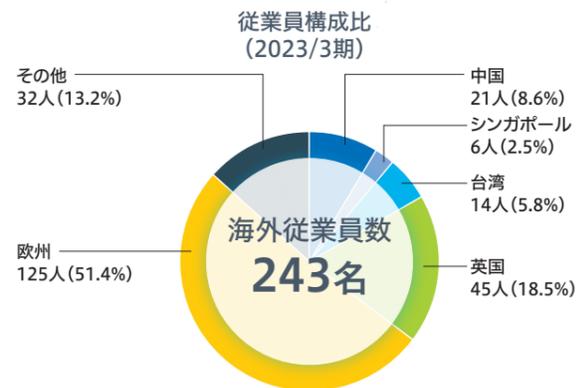
* EDOF (拡張焦点深度) の原理を採り入れたコンタクトレンズとして承認を取得し、日本で初めて製品化

「Made in Nippon」の高付加価値レンズを世界へ

シードは、Pureシリーズ等、基礎研究から製品開発、製造、販売をすべて自社で行う国内一貫生産が特徴です。「Made in Nippon」によって実現する高付加価値レンズで、独自の存在感を発揮しています。



国内のコンタクトレンズ市場は安定的な成長が見込まれますが、少子高齢化や人口減少が加速するなかで持続的に成長していくためには、海外市場における収益力の向上も重要です。当社は2011年から海外展開を開始し、今ではアジア、ヨーロッパを中心に40カ国以上の国と地域に



販売経路を拡大。2023年3月期の売上高は39.1億円となり、海外従業員数は243名(24.2%)となりました。これまで国内市場で培ってきた知見や経験を応用し、高品質、そして高付加価値な商品を日本から世界へお届けしています。



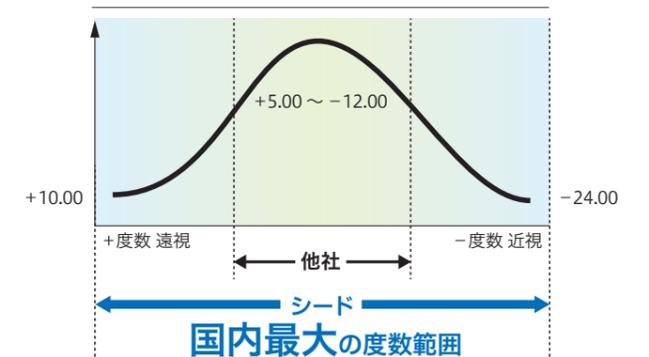
ブランド数 7種

商品ラインアップ数 37種

より多くの「見える」をサポートする 多様な商品・事業展開

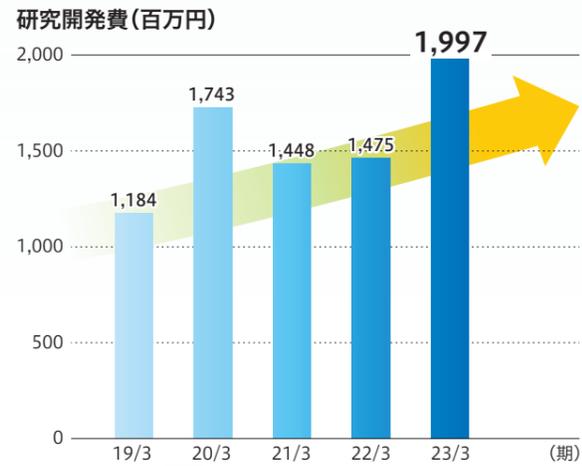
シードは、より多くのお客さまの「見える」をサポートするために、ハードコンタクトレンズ、使い捨てコンタクトレンズ、乱視用、遠近両用、サークルレンズ、動物用コンタクトレンズ等、幅広い商品を展開しています。また、虹彩欠損症患者さま向けの虹彩付きソフトコンタクトレンズをはじめ、ニッチなニーズにもきめ細かく対応できる商品も用意しています。さらに、一人ひとりの視力に対応するため、Pureシリーズでは国内最大幅の度数ラインアップを実現。多くの企業はボリュームゾーンのみでの度数展開ですが、シードはそれ以外の度数もカバーしており、一人ひとりの眼に寄り添った商品を提供しています。

Pureシリーズ製作範囲



未来の「見える」に挑戦し続ける 積極的な研究開発

シードは、英国、ドイツ、スイス等のグループ会社と協働しながら、トリガーフィッシュ®システムに続く第2世代のスマートコンタクトレンズや、オルソセラトロロジーレンズをはじめとした医療用コンタクトレンズ、内視鏡フード等のコンタクトレンズの技術を応用した他分野の医療機器・ソリューションの実用化に向けて挑戦し続けています。既に上市しているトリガーフィッシュ®システムは、世界で実用化されている数少ないスマートコンタクトレンズの一つです。この優位性を活かし、特にスマートコンタクトレンズ領域でのトップランナーになるべく開発に注力しています。さらに、長年培ってきた技術を用いて、自社での研究開発にとどまらず、国内外の様々な企業、大学、研究機関とも共同研究を実施し、画期的な次世代製品の開発を目指しています。



開発拠点
4拠点

研究開発員人数
約90名



QC発表会
2回/年

9,000SKU
以上の品種を製造

高品質な多品種少量生産を実現する Japan Quality

シードの製造拠点である鴻巣研究所では、高精度な全品検査体制によって徹底した品質管理を行っており、厳選された製品のみをお届けしています。2次元コードやIDタグによる一元的な生産・流通管理により、すべてのレンズにおけるトレーサビリティ(追跡調査)を可能にし、医療機器メーカーとしての品質を厳格に管理しています。さらに、製品の品質向上を目的としたQC活動(Quality Control)も積極的に実施しており、半年に一度開催されるQC発表会には社長や役員も参加し、各活動テーマの進捗状況や成果が報告されます。QC活動は、歩留まり率の向上やコスト削減等に寄与しています。

品質方針

製品と提供サービスの品質をシードの経営活動の最優先事項とし、患者様・お客様の「見える」をサポートします

品質水準の向上を目指し、PDCAサイクルを回してQMSを不断に維持します

品質に関する法規制を遵守し、多様なお客様の品質要求に応えます